

平成30年度「学校における交流及び共同学習を通じた障害者理解(心のバリアフリー)の推進事業」成果報告書

団体名	仙台市教育委員会
-----	----------

I 概要

1 事業の概要

特別支援学級を設置している本市立学校から10校(小学校8校, 中学校2校)を実施校に認定し, 障害者アスリート等との交流及び共同学習を各校とも1~3団体と実施した。(スポーツ)

- 実施した学校は8校, 競技種目等は以下の通りである。 ※( )は活動拠点
- ・車いすバスケットボール(仙台市)
  - ・電動車いすサッカー(仙台市)
  - ・ゴールボール(東京都)
  - ・パラバドミントン(仙台市)
  - ・障害者陸上〔槍投げ〕(福島県)
  - ・車いすテニス(仙台市)
  - ・スポーツ義足のマラソンランナー(大阪府)
  - ・義肢装具士(仙台市)

各校とも, 事前学習で障害者や交流予定の競技種目について学習した上で, 交流及び共同学習を実施した。主な内容は①競技についての説明②デモンストレーション③選手からの講話④競技体験⑤感想発表・質疑応答等とし, 詳細は児童生徒の実態に応じて工夫して行った。

(文化・芸術)

- 実施した学校は5校, 交流先は以下の通りである。 ※( )は活動拠点
- ・器楽アンサンブル(仙台市)…ダウン症の音楽家とその家族
  - ・金管五重奏楽団(仙台市)…視覚障害のある音楽家の方々
  - ・手話ソング(仙台市)…聴覚障害のある手話ソング奏者

各校とも, 事前学習で障害者について学習した上で, 交流及び共同学習を実施した。主な内容は, ①演奏②音楽家からの講話③感想発表・質疑応答等とし, 詳細は児童生徒の実態に応じて工夫して行った。

2 事業の成果

本市での本事業の取組は2年目になる。今年度は昨年度と同様の成果があったが, これに加えて以下のような取組が特に効果的であったと考える。

(スポーツ, 文化・芸術共通)

○事前学習で障害について調べるだけでなく, 障害の疑似体験を取り入れる等の工夫をすることにより, 交流における講師の説明やパフォーマンスを, 児童生徒がより深く理解できたという報告が複数校からあった。今後の本事業の実施校に対し, より効果的な取り組みを行う手掛かりとなるものとする。

○交流内容について, 事前の打ち合わせを学校が主体的に行い, 交流当日に児童生徒と講師が共通の目標を持って活動できるような内容を設けた学校があった。交流実施前, 多くの

児童生徒は、「障害のある人は支援される人」、「自分たちは支援する人」という意識を持っていたことがうかがえた。しかし、交流を通して、障害のある人も自分たちと同じように得意なことや苦手なことがあっても、目標に向けて頑張っているということに、多くの児童生徒が気付くことができた。このことは障害のある人への関心を高め、人それぞれの多様性を尊重し、認め合うことにつながっていくと考える。

○保護者参観日と本事業の交流日を合わせることで、交流の様子を多くの保護者にも参観してもらった学校があった。家庭で子どもと保護者が交流を振り返り、障害について話をする機会ができることで、子どもが障害について考える機会が増えることに加え、保護者への障害理解啓発につながり、学校だけでなく家庭、地域へと障害理解の場が広がることにつながると考える。

### 3 事業の課題とその解決のために必要な取組

- チームの遠征や大会などの関係で、交流可能な期間が年度後半になったため、気温が低い時期にあたり、活動に制約が生じた。次年度は、予め日程調整段階で確認しながら、なるべく早い時期の交流日程調整を依頼する。
- 旅費について、本市の外部講師招聘の扱いと合わせていく。